

北中校内研修だより (1年・社会)

平成23年7月7日(木)
1年2組 教室 第4校時
授業者 新井 幸弘

農民の生活の変化は 土地制度にどのような影響を与えたか ～班田収授法から墾田永年私財法へ～



校内研修テーマに関わる今年度の社会科の重点的な取り組みの一つは、『資料の精選と資料提示の工夫』です。本時では四種類の資料が提示されましたが、生徒の興味・関心を高めようとする工夫や社会科のテーマでもある思考力・表現力の育成と多面的・多角的なものを見方をさせようとする意図が感じられました。

導入で示された絵図は、租・調・庸をはじめとする様々な税を支える農民のイラスト。農民の表情やしぐさから、何を考え思っているかを吹き出しの形で表現してみようというものでした。生徒の反応は・・・

* 苦しい～！助けてくれ！

* どうしてこんなに税が重いんだ。何とかしてくれ！

* つらいよ～。こんな生活、もうヤダー。

等々。吹き出しの形にしたことで、生活の苦しさ・税の重さを表す言葉が、様々に表現されていました。

そして、本時のねらいに迫るための資料『荷物を運ぶ農民の様子』と『都までの運搬日数』、『貧窮問答歌』の提示。これらの資料から、何が苦しいのか、農民の生活はどう変わっていったのか、土地制度はどうなったのかを考えさせました。

○ 役人は鞭を持っていて、農民に荷物を運ばせている。

○ 都まで荷物を運ぶのにとっても日数がかかる。

○ 荷物を運ぶ間の費用は誰が出すんだろう？

○ 都に荷物を運んでいる間の土地は誰が耕していたのだろうか？帰ったら、土地に草が生えているのではないだろうか(土地が荒れているのではないか)？

○ 税をたくさんとられているから、農民はものを食べられないのではないか。それなのに税を出せと里長に言われるのはいやだ。

○ 鳥のように羽があったら飛んで逃げていきたいほど生活が苦しかった。本当に土地を捨てて逃げてしまった農民もいるのではないか。捨てられた土地はどうなる？

など、ねらいに迫る様々な意見が出されていました。本時は、前半部分に時間をかけすぎてしまったこと、話し合いに深まりが見られたため時間をかけたことで、話し合い結果を発表したところで終了してしまいました。まとめまで見られなかったことが残念でした。農民生活の変化と土地制度の変化については、次時でまとめが行われました。

社会科では、昨年度の研修の中で得られた成果の一つである『課題解決に向けたわかりやすい資料の提示』を本年度も継続的に取り組んでいきます。本時の「自分の考えを書く…みんなで話し合う…発表を聞き意見交換を行う…全体での発表…さらに考えを深める」という流れの中でも、わかりやすい資料の提示が生徒の興味・関心を引き出すことにつながり、様々な意見・考えを持たせ活発な意見交換を可能にしていました。これからも『資料の精選と資料提示の工夫』を意識した授業を心がけ、社会科のおもしろさ・楽しさを体感させる授業展開を期待したいと思います。それが、校内研修テーマの実践にもつながります。

